



雨の中でもスマイル、スマイル



はざかけは初めて



かかしとツースヨット



知事(右)も、市長も汗だく



どしゃぶりで、びしょぬれで大変だったけど、

10月3日午前、朝から降り続けている雨がやむ気配を見せないまま、稲刈りフェスティバルはスタートしました。カッパと長靴と思いきいの衣装に身を包んだ参加者たちはびしょぬれ・泥だらけになりながらも、春に自分たちで植え、例年以上に豊作となった稲を一生懸命に刈っていました。

各国の外交官や多くの市民、子供たちに参加してもらい、米・稲作農業の視点から地球環境、国際協力について考えようという目的で平成11年に始まった「地球環境米米フォーラム」。5月の田植えフェスティバルに続き、今回の稲刈りフェスティバルにも57か国110人の外交官らと市民ら1400人が参加。前日に、安城に到着した各国の参加者らは春に出会って以来のホストファミリーとの再会を果たした後、それぞれのホームステイ先へ。各家庭ごとに工夫を凝らしたもてなしを受けながら、三河での一夜を過ごしました。また翌日の稲刈り終了後に行われた特設会場での昼食会でも、食を通じて世界各国の交流の輪が広がりました。

「食」農業「環境」国際交流。4つのテーマが織り成す数々のイベントを通じて、それぞれに感じていただいた『米』文化。水田稲作の自然環境に果たす役割、稲作を基本とする日本人の精神性、地域の伝統文化などを新たに、また改めて発見していただきました。

そして、今回の米米フォーラムでの、地球環境、国際協力への取り組みは、来年3月25日に開幕する愛知万博（9月25日まで）で、必ずや生かされるでしょう。

結局、最後までやむことのなかったあいにくの雨。しかし、「普段のオフィスでの仕事から離れて参加した田植えと稲刈り。雨で大変だったけれども本当に楽しかった。環境と農業は密接に関係している。どちらも、もっと大切に考えていかなければならないことを実感した」(ボツワナ共和国シマネ・ローレンス・ケラオツエさん)という感想を聞くと、今回ばかりは環境の大切さを教えてくれた貴重な雨だったのかもしれない。

雨が生命の源、水の大切さを教えてくれた。

米米フォーラムで見つけたもの

愛知地球博 プレイベント

地球環境米米フォーラム in 三河安城

稲刈りフェスティバル

10月2日・3日 デンパーク周辺で、世界57か国が参加して開催されました。





桜井鳳も
展示されました



安祥太鼓の熱演に
拍手喝さい！



世界に響け、
ドンドコドン



乾ばーい！



「この会の成功で、万博への
期待が高まった」と知事

次の舞台、愛・地球博で！ また会いましょう。



白木^{さとし}さん一家（上条町）と
ロン・フォスターさん（オーストラリア）

岡崎城などを見学した後、白木家へ。ご主人がこの日のためにこしらえた、手作りの手巻き寿司に、ロンさんが日本語で「とっても、おいしいです」。



ちよつと、おじゃまします。ホームステイ先訪問！



藤岡家にはブライアンさん以外にも、コートジボワール、フランス、リトアニア、イスラエルの参加者、ホストファミリーが大集合。藤岡さん一家による日本舞踊、琴の演奏などが披露され、部屋は、拍手の渦に包まれました。



藤岡尚孝さん一家（朝日町）と
ブライアン・クイグリーさん（アメリカ）

★2005年日本国際博覧会

- 開催期間 来年3月25日～9月25日
- 開催場所 名古屋東部丘陵（長久手町・豊田市、瀬戸市）
- 安城市のフレンドシップ国
デンマーク王国、コートジボワール共和国、オーストラリア連邦、アメリカ合衆国



準備が進む万博会場（愛知県館）



神楽の演奏も



「ふるさと」など日本の歌を熱唱

